



# ドクター板東の メディカルリサーチ

Vol. 30

~心身を刺激 津軽三味線が~

<http://hb8.seikyou.ne.jp/home/pianomed/>

平成20年7月、北海道で「洞爺湖サミット」が開催されるのを「存じだろう。これに関連したサミットと会議」も、6月上旬に青森市で行われる。その会場が、当地で信頼度が高いホテル青森である。

その由緒あるホテルに、いま私は滞在している。といふのは、私が専攻する糖尿病学や内分泌学で、年に一度の日本内分泌学会第81回学術集会が、「ここ」で開催されたからである。

## ハイレベルの徳島大学

同学会の歴史を振り返つてみたい。過去80年間で、大都市圏以外で開かれたのは、わずか7回。その一つが第65回、徳島での大会だった。当時、私の恩師、斎藤史郎教授（元徳島大学学長）が主催され、高く評価された。準備は2年間。私は雑用係として動き回り、懐かしく、誇りに思う。

今回、同学会賞を授与されたのが、徳島大学の松本俊夫教授である。全国大会



を主催する可能性もあり、当大学の高い研究レベルが注目を浴びている。

## 津軽三味線のスポット

私は、学会終了後、会場近くの有名スポットを訪れた。津軽三味線で広く知られる「たか久」だ。前もつてリサーザしたところ、津軽三味線に加えて「ねぶた」も楽しめるとされる。

さつそく津軽三味線と唄が始まり、店中に津軽の音楽が響き渡った（図1）。バラエティに富み、笛や太鼓も登場（図2）。客の飛び入り参加で一緒に踊り、本当に盛り上がった。



歌と踊りで活力が湧いてきたとき、偶然私と同席した人が、YOSAKOIチ

ーム「津軽もつけんど蒼天

飛龍」の代表・吉田守氏である（図3）。店内の大きなボスターには、YOSAKO

Iと津軽のコラボレーションとあり、レギュラー出演中。各地で公演をしながら、札幌の「よさこいソーラン」を広める活動を継続している。

本来、よさこいソーランは、

北海道大学の学生から生まれてきたもの。各地の音楽や踊り、文化、芸能は、他の地域で交流し影響しあう。そして、次第に形を変え、新しく展開していく。今後、津軽海峡を挟み、北海道と青森でも、踊りが進化していくだろう。

## 粹な津軽の詩歌

店内には、お洒落な詩歌が自然に溶け込んでいた。

「ここで思い出したことが。以前、沖縄に出張したとき、国際通りにある嘉納昌吉さんの店「チャクラ」を訪れた。「花々すべての人の心に花を」と、心身が和み、「ハイサイおじさん」で、皆で踊ったのだ。



当地的興味深い酒は、

・**ん** 地酒純米酒（弘前）  
・**豊盃** 特別純米酒（弘前）  
・**田酒** 特別純米酒（青森）

など。私は、入手困難とされる田酒のフルーティな味を堪能。酒に関する粹なフレーズを発見した。

冷やで良し 燭で良し  
青森の酒は

こだわりの味

また、障子には、「りんご節」の歌詞が。心を和ませるような柔らかい書体で書かれている。図4の春と夏に続くのは、



その夜、私は魅力的な音を求め、津軽三味線のハシゴをしてみることに。

地図を片手に近隣の「いぶし銀」へ（図5）。ホルモン焼きも美味しい処である。ここで津軽三味線の名手・工藤純市氏の演奏に感動（図6）。氏は超絶技巧の曲を余裕で弾き、津軽じよんがら節で新旧の差異や歴史など、解説して頂いた。氏の三味線には、強弱や遅速、音色の揺らぎがあり、とても心地よい。やはり、生演奏は最高だ。身体の細

本来、各地の民謡には、人々の心が息づいている。共に労働したり、苦しい気持ちを吐露したり。それぞれの人生が、詠み込まれているのだ。

## 津軽三味線のハシゴ

胞が振動し反応しているかのように感じる。

## ホルモンとは

ところで、冒頭で紹介した内分泌学とは、ホルモンの学問を意味する。そもそも、ホルモン(hormone)という言葉は、ギリシャ語の hormone に由来し、興奮させる、刺激する、呼び覚ますという意味なのだ。

しましばしば、「焼肉のホルモン焼き」との関係が話題となる。元来、大阪の洋食レストラン「北極星」の経営者が、食べずに捨てる内臓物を料理に使う方法として「ホルモン料理」を始め

たという。そのため、名称「ホルモン料理」は、商標登録されている。面白い説がある。関西弁では、投げ捨てる物を「ほおもろい。ほかには、臓物料理と呼ぶのは印象や気分があまり良くない。だから、hormone にあやかり、活力が溢れるように命名された」という。

ヒトの身体には、さまざまなものホルモン器官があり、うまく刺激しあっている。だから、特に意識しなくても、元気に毎日を過ごすことができる。また、男性・女性ホルモンがタイミングよく適度に機能するため、種の保存も可能なのだ。

一方で、環境ホルモン（外因性内分泌搅乱物質）という、やつかいな代物も出現してきた。多くは女性ホルモンと類似している。そのため、男性の女性化や男性の精子数の減少など、様々な悪影響がみられる。



好きな音楽やなじみの音楽を聴取すると、気持ちよくなる。その仕組みとして、恍惚ホルモンが関与するという。

要は、ホルモンも、音楽も、踊りも、酒も、適度の刺激が一番いいということにならないだろうか。

（板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト）